「小浜の森の夏の植物」①（平成 29 年６月編）

撮影・作成：流尾哲也

東京浅草観音ほおずき市（７月９日）まであとひと月だ。まだ、ほおずきは小さい。

（６月９日、北部植栽ゾーンにて、上下とも）

ムラサキシキブが花盛りだ。秋の実が楽しみだ。

花も紫色で美しい。

（左右の写真は６月９日撮影）

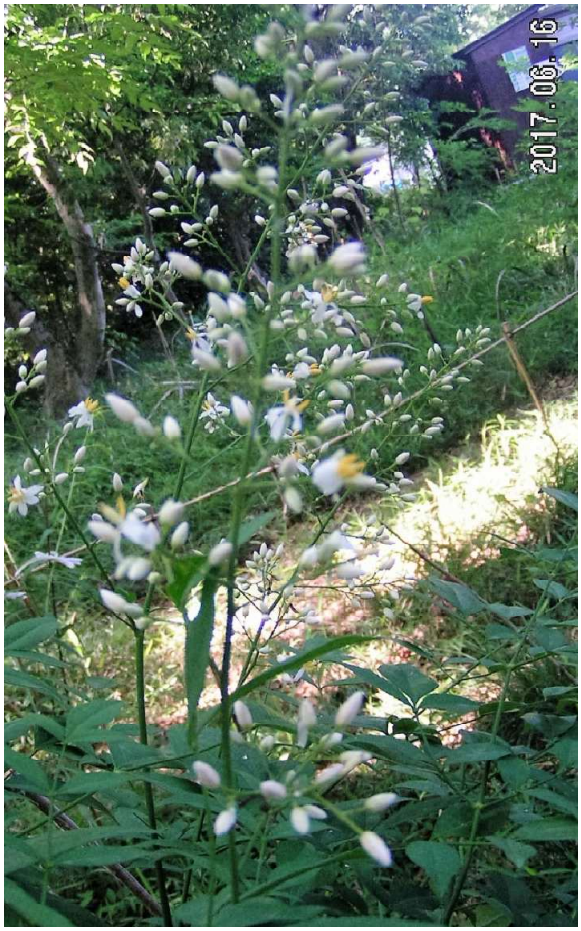
ガクアジサイの装飾花は色づいたが真花は蕾だ。

雨でイチヤクソウがやっと開花した。

ナンテンは梅雨時の花だが、雨も少なくてやっと一番花が咲いた。日当たりの悪いせいもあろう。（６月９日、広場の東部）

（写真下）上の南天が６月 16 日には少し咲き進んだ。

市道沿いのクチナシの花が終わりかけていた。（6 月 16 日）



広場の奥の薄暗い場所にはハエドクソウの小さな花がひっそりと咲いていた。花が終わった果実には鉤ができて衣服などに取り付いて生育地を広げる。

全草がハエには有毒だが、特に根に有毒成分が多くて昔は根のついた株を便所に投げ入れてハエのウジを殺した。（6 月１６日）

夏至（６月２１日）の前日に小浜の森のガクアジサイの「開花宣言」が出た。中央の雄蕊・雌蕊のある真の花（真花）が数輪咲いている（右の写真）。（市道沿い、６月２０日）

サワフタギは森への出入り口にあるが、気づかぬ人が多い。晩秋になって果実が藍色に色づいたら気づくだろうか。（６月２２日）

ヒョウタンボクは全体に有毒だが、ひょうたんのような形をした赤い実は猛毒なので道べりから森の奥の植栽ゾーンに移植した。決して実を口にすることなかれ。

ヒョウタンボク（スイカズラ科）の花は「金銀木」とも言われ美しいが実はトリカブトに次ぐ猛毒にもかかわらず、成分は特定されていない。
また花はスイカズラ（金銀花）とよく似ているがスイカズラのように花の蜜を吸わないこと。